

教育センター「みらい」事業について

学校教育課 教育センター【みらい】

1 教育大綱の理念浸透、授業改善の推進

(1) 令和7年度 学習状況調査(児童・生徒質問紙)の「教育大綱」にかかわる回答結果

- ・現教育大綱は、令和3年4月に施行され、最終年の5年目を迎えている。教育大綱にかかわる質問事項への肯定的な回答の結果について、施行当時と本年度の数値を示す。

単位 (%)

| No. | 質問事項 ※ 児童・生徒質問紙 | 小学校 | | 中学校 | |
|-----|---|------|------|------|------|
| | | R3 | R7 | R3 | R7 |
| ① | 自分には、よいところがあると思いますか | 75.8 | 85.4 | 79.2 | 86.5 |
| ② | 将来の夢や目標を持っていますか | 76.4 | 81.7 | 68.3 | 70.5 |
| ③ | 人の役に立つ人間になりたいと思いますか | 95.9 | 95.7 | 97.2 | 96.1 |
| ④ | 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか | 70.3 | 78.4 | 74.5 | 81.5 |
| ⑤ | 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか | | 93.1 | | 92.2 |
| ⑥ | 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか | 73.0 | 79.9 | 69.1 | 76.0 |

- ・もともと95%超の③の質問事項を除いた全ての項目で、着実に肯定的に回答した割合は伸びている。

(2) 結果の周知

- ・市内教職員、小中学校保護者向けそれぞれに報告書を作成し、発出した。

2 子どもの豊かな学びの創造のために

(1) 令和7年度 ステップアップ教室

①参加者数について（前期校は実績者数、後期校は申込者数）

単位（人）

| | 焼津東 | 焼津西 | 焼津南 | 豊田 | 小川 | 東益津 | 大富 | 和田 | 港 | 黒石 | 大井川東 | 大井川西 | 大井川南 | 計 | 昨年度比 |
|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|----|----|----|----|------|------|------|-----|------|
| 時 期 | 前 | 後 | 前 | 前 | 前 | 後 | 前 | 後 | 後 | 後 | 前 | 前 | 後 | | |
| 児童数 | 12 | 32 | 17 | 36 | 32 | 17 | 23 | 17 | 26 | 32 | 18 | 21 | 16 | 299 | + 24 |
| ボウ数 | 4 | 10 | 6 | 12 | 10 | 6 | 8 | 6 | 9 | 10 | 6 | 7 | 5 | 99 | + 7 |

②昨年度（令和6年度）より参加人数が増加した要因として考えられること

- ・児童用クロームブックにステップアップ教室のポスターを貼り付け、クロームブックを起動する度に、目に入り、主体的に参加してみようと思う機会を増やした。
- ・これまでの継続的な取組により、事業自体の効果を実感した保護者が、きょうだい関係で再び参加した。
- ・応募方法を紙媒体からデジタル化し、応募する保護者にとっても、保護者と教育センターをつなぐ学校にとっても、申込が簡略化された。

(2) 令和7年度 サマーステップアップ教室

①実施状況

- ・参加者・・・小学6年生（事前申込）58人 中学1年生（事前申込なし）65人 計123人
- ・会場・・・8中学校区の地域交流センター（大井川地区は教育センター）
- ・時期・・・市内小中学校が夏休みに入った7月末から8月初め
- ・回数・・・各会場、1.5時間を2回ずつ
- ・支援者・・・市の青少年ボランティア人材バンクに登録した中高生、中央高生
教育センターが依頼した学習支援者、教育センター職員（含む準備運営）

②対象者の事後アンケート結果

- ・参加した小中学生に実施したアンケート結果を示す。

| 選 択 肢 | 人数（人） |
|-------------|-------|
| ア よかった | 104 |
| イ まあまあよかった | 14 |
| ウ あまりよくなかった | 0 |
| エ よくなかった | 1 |
| 計 | 119 |

「よくなかった」と回答した本人に聞き取りをしたところ、「静かな環境で、一人で集中してやりたかった」ということでした。今後も、本事業のねらいについて丁寧に説明していきます。

③支援者数の実数

- ・中高生のキャリア形成の機会となっており、支援者側にとっても有意義な事業である。

| 所 属 | のべ人数（人） | 1会場あたり数(人) |
|--------------------------|---------|------------|
| 青少年ボランティア人材バンク登録中高生 中央高生 | 58 | 7.3人 |
| 教育センターで依頼した学習支援者 | 16 | 2人 |
| 計 | 74 | 9.3人 |

④来年度の実施に向けて

- ・今年度まで、中学生は、気軽に主体的に参加できるよう事前申込なしで実施した。しかし、昨今の猛暑による熱中症の心配、自然災害対応等を鑑み、次年度以降は事前申込制とする。

(3) 外国語指導支援

①中学校の指導助手（ALT）の配置数

- ・令和7年度より、交付金措置があるJETプログラムのALTを市の会計年度任用職員として任用を開始。今年度からの3年間で、ALTを3名から6名に増員する。

| 時期 | R7.8～ | R8.8～ | R9.8～ |
|---------|-------|-------|-------|
| ALT数（人） | 4 | 5 | 6 |

②JETプログラムALT任用に伴うJETALTコーディネーター（以下「JETCo.」と表記）任用

- ・生活支援、授業支援の両面からJETプログラムALTの支援を行っている。

③今後の配慮事項

- ・ALTが来日して2か月ほどになるので、心身の様子を十分に把握していく。
- ・近隣他市では、ALT本人の申し出により、途中で任用解除となった例がある。代替を任用できないので、JETCo.を中心に、引き続き生活支援と授業支援を的確に行っていく。

3 子どもにとって魅力ある教師を育成するために

(1) 教師力育成

- ・年度初めに計画した対象者 38 人、訪問基本回数に限らず、臨機応変に対応している。

例 児童の様子が落ち着きにくい学級の担任への訪問回数を増やし、対象者の心の内を聞き取る回数を増やしたり、学校と連携して同じスタンスで激励したりしている。

例 10 月から代替で、新たに任用される講師への参観、助言を開始している。 等

(2) みらいの先生育成「みらいアカデミー」

①今年度の受講人数（過去 2 回の受講人数と、受講生の現況）

| 期 | 受講人数 | 現 況 |
|--------------------|------------|---------------------------------|
| 第 3 期 (R5.10～R6.6) | 15 人 | R7 年度正式採用 4 人 講師（焼津市に配属） 8 人 |
| 第 4 期 (R6.8～R7.6) | 13 人 + 1 人 | R8 年度正式採用予定 5 人 講師（焼津市に配属） 11 人 |
| 第 5 期 (R7.8～R8.6) | 25 人 | 既卒 6 人 教職大学院 1 人 大学（2，3 年） 18 人 |

- ・正式採用者も生み出しているが、臨時講師の確保につながっている。

②受講人数が増加した理由

- ・会場の変更（大井川庁舎→本庁舎）
- ・時間の変更（18:30～20:30→18:30～20:00）
- ・静岡福祉大の特任教授との連携
- ・受験対象者の拡大 等

4 外国につながる児童生徒支援のために（重要事案のため特に詳しく説明します）

(1) 就学ガイダンスについて

①教育センターで就学ガイダンスを実施した子供の人数（10 月 3 日現在）（単位：人）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| フィリピン | 0 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 | | | | | | 7 |
| ブラジル | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | | | | | | 5 |
| スリランカ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | | | | | | 3 |
| 人 数 | 0 | 1 | 3 | 3 | 2 | 3 | 3 | | | | | | 15 |

②今年度の傾向

- ・国外から入国し、就学ガイダンスを行う児童生徒数は、昨年度よりやや少な目である。
*一方で、日本語指導が必要な児童生徒数は、令和 7 年度も、昨年度より 30 人増えている。
- ・昨年度は、8 割程がフィリピン国籍であったが、今年度はブラジル国籍の割合が増えている。
そこで、1 回目の就学ガイダンス後、ブラジル国籍の児童生徒についても、バイリンガル支援員によるプレ教室（みらい教室）を、教育センターで実施している。

(2) 今年度の新たな取組

①保育幼稚園課との連携

(ア) 外国につながるコーディネーター（以下「外 Co.」と表記）の公立幼稚園、保育園の訪問

- ・園も外国につながる子供たちが増え、職員の負担が大きい。そこで、外 Co. のこれまでの経験と知識を、園に伝える機会となることを願い、訪問、話し合いを進めている。

(イ) 保護者への啓発

- ・保護者が園を訪れるときに、外 Co. が来園し、園の職員とともに話をする機会を計画している。母語の大切さを保護者に訴える機会の一つになることも期待している。

(ウ) プレスクールへの保幼課職員の参加

- ・将来的な事業拡大も考慮し、今年度より保育幼稚園課の職員も、プレスクールに参加する。

② プレスクールの会場拡大

- ・プレスクールの会場を増やしてほしいという要望を受けているが、ねらいに合った会場が限られる。また、人員、予算の確保も必要である。そこで、将来的な会場拡大を視野に入れつつ、今年度は、以下の方法で実施する。

| | 昨年度まで | 今年度（令和7年度） | |
|----|---|---|----------------------------------|
| 会場 | 大井川南小 体育館会議室 ・校舎外 ・児童用のいす机あり | 大井川南小 体育館会議室 ・校舎外 ・児童用のいす机あり | 和田小 かんげい教室 ・校舎内 ・児童用のいす机あり |
| 対象 | 市内未就園児 大井川南小に入学する園児 | 市内未就園児 大井川南小に入学する園児 | 大井川南小のプレスクールに参加しない和田居住の未就園児 |
| 回数 | 7回 | 6回 | 1回 |
| 内容 | オリエンテーション 学校の約束、トイレの使い方 道具の使い方、給食の食べ方 鉛筆の持ち方、掃除の仕方 交通安全教室、着替えの仕方 集団登校、日本語の勉強 等 | オリエンテーション 学校の約束、トイレの使い方 道具の使い方、給食の食べ方 鉛筆の持ち方、掃除の仕方 交通安全教室、着替えの仕方 集団登校、日本語の勉強 等 | オリエンテーション 学校の約束 等 |

(3) 来年度以降に向けて

① 外国につながる児童生徒向けの放課後学習支援

- ・みらい教室での様子、学力学習状況調査の結果をみると、外国につながる児童生徒は、勉強は好きで、やりたい気持ちはもっているが、学習の理解が進まない傾向がある。そこで、令和8年度に以下のような外国につながる児童に特化した放課後学習支援を試行し、検証する。

| | |
|----|--|
| 会場 | 市内小学校の1校 |
| 対象 | 会場校の外国につながる児童の希望者 |
| 回数 | ① 1時間を8回、② 2時間を4回、③ 1回の支援員数を減らして2時間を8回 |
| 内容 | 学習用語を使用した教科学習支援 |
| 指導 | 教育センター指導主事 外 Co. 外国につながる児童生徒教育の支援員 |

② 現地と結んだ母語による学習支援（視察報告を兼ねる）

(ア) 視察校の現状（参観および職員からの聞き取り）

- ・認定 NPO 法人 e-Education と連携し、掛川市内の小学校4校で実施している。
- ・視察校では木曜日は4年生1人、金曜日は6年生1人が、それぞれ第5校時に、フィリピンの現地とオンラインで結び、現地の先生と算数の勉強を行っている。

- ・母語がある程度確立されていないと実施は難しく、児童の実態に合わせて取り組む児童を決めている。現地教師1名、児童生徒1名で行うのが効果的である。
- ・年度初めに年間計画の打合せを行っており、使用教科書も現地教師の手元にある。
- ・リアルタイムでつなぐため、時差があまりないフィリピンとの調整しかつかず、可能言語が限定されてしまう。

(イ) 焼津市としての可能性

- ・学校に編入する前のみらい教室で学んでいる時期に、現地とオンラインで結び、教科の学習状況を把握するために活用すると効果的だと考える。場面、会場、適した人数、必要な予算等、さらに調査をしていくことが必要である。

③ 中学校卒業後の進路について

(ア) ある市立中学校の卒業後の複数年度期間の進路先累計人数 (単位：人)

| 進路先 | 全日制 | 定時制 | 通信制 | 就 職 | 未 定 |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| 人 数 | 15 人 | 8 人 | 7 人 | 3人 | 6人 |

(イ) 課題

- ・全日制の高校に進学する中学生もいるが、一方で、進路先未定者をはじめ、生活リズムが不規則になりがちな卒業生が一定数おり、心配である。
- ・中卒の求人は、ハローワークに相談しても難しい。

(ウ) 願うこと

- ・就業者として活躍してほしいと願う。そのためにも、進路先未定という中学生がゼロに近づくよう卒業生の進路を支援するために、他部局・課に連携していただいて、就職先の企業を見つけたい。

(4) バイリンガル支援員について

① 実働登録者数 (令和7年10月9日現在)

- ・20名 (タガログ語、ビサヤ語、ポルトガル語、英語、スペイン語、中国語、インドネシア語、ウルドゥー語、韓国語、ネパール語、ベトナム語、シハラ語)

② 活動例

- ・小中学校での保護者面談での通訳
- ・小中学校の配付文書、およびお願いごとの翻訳
- ・就学ガイダンスでの通訳、子供の学習履歴把握
- ・みらい教室での児童生徒の教科学習定着や母語の習得具合の把握
- ・小中学校編入後の初期適応指導 等

③ 教育センターとして取り組んでいくこと

- ・バイリンガル支援員の活動は、多種多様であり、中でも中学校の進路指導面談やみらい教室での指導など、通訳や翻訳までをお願いしている支援員は、①の人数の半数以下である。各小中学校からの要望に、できるだけ速やかに、希望通り対応できるようにするために、今後、バイリンガル支援員の新たな人材発掘に努めるとともに、現バイリンガル支援員の維持と育成をめざす。